

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年6月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893800029		
法人名	株式会社 メディカルアシスト		
事業所名	グループホーム やまゆり	ユニット名	Aユニット
所在地	〒300-0414 茨城県稲敷郡美浦村信太2644-3		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年7月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0893800029-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年2月12日	評価機関 決 済 日	平成27年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・今までの生活状況が損なわれぬよう家庭的な環境雰囲気を提供しています。
- ・笑顔で会話するよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は幹線道路から少し入った場所にあり、駐車場を広々と確保しており、解放感のある建物となっている。</p> <p>駐車場の片隅にある畑で大根などの野菜を育てており、利用者の楽しみとなっているほか、敷地内に井戸を設置して生活用水に利用したり、災害時に備えている。</p> <p>法人代表や管理者は、日頃から職員が気軽に何でも相談ができるよう配慮をしており、職員が利用者のケアについて提案すると、管理者は反対することなく一緒に考え、きめ細やかなサービスの提供ができていているなど、職員にとって遣り甲斐のある職場となっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に全員で理念を唱和している。また職員のネームプレートの裏には理念を付けて実施に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、玄関や廊下の壁、職員の休憩室などに掲示している。 管理者は朝の申し送り時に理念の唱和や名札の裏に記載し、職員がいつでも理念を確認、共有できるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地区の納涼祭等に参加するなどして地域との交流を深めるよう努めている。	管理者と職員は、美浦トレーニングセンター主催の納涼祭に利用者と参加したり、傾聴ボランティアに月1回来訪してもらい、利用者の話を聴いてもらうなど、地域住民と交流している。 利用者は職員と一緒に、近くのコンビニエンスストアに買い物に出かけ、店員や地域住民とあいさつを交わしている。 管理者は地元の消防団に、災害時に備えて事業所の場所や建物の構造、利用者の状況を知ってもらうように話を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のなかで地域の方に認知症の理解、支援をしてもらえるよう説明し、協力を呼び掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見等を職員で話し合いを行い取り入れるようにしている。	家族等の代表や村職員、民生委員、区長が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所の運営状況や事故報告等をしている。 管理者は日頃の事業所の現状を伝え、出席者からもサービスの改善に向けた意見が出るよう努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接行政に足を運んで顔を出すよう努めている。行政との関わりを密にするよう取り組んでいる。	運営推進会議に村職員が毎回出席しており、行政の情報を得るほか、管理者は村担当者に家族等のいない利用者の財産管理に関する相談や生活保護の手続き、健康管理、事業所で起った事故報告等の情報交換を行い、アドバイスや指導を受けて運営に活かすなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのカンファレンスを行って拘束しないケアについて共有している。問題、疑問については随時カンファレンスを行い意見交換をしている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを整備するとともに、職員は勉強会を開催して全職員で共有している。 利用者の安全のため、やむを得ず玄関の施錠をしているが、家族等に説明をしたり、月1回の職員会議で施錠の必要性を確認している。 廃止に向けた話し合いを定期的に行ってはいるが、それらを記録に残したり、家族等への説明を書面に残し、家族等から書面で同意を得るには至っていない。	玄関の施錠を含め、やむを得ず身体拘束をする場合、漫然と行うことなく、日々の経過記録を取り、真に必要性を検討することが望まれる。 全職員が身体拘束をしないケアに取り組むため、職員間で定期的に話し合いを持ち、粘り強く改善に向けて取り組むことを期待する。 家族等にも定期的に報告するとともに、同意を得て書面に残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には虐待に関する資料の確認と勉強会等を行って虐待防止についての意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には資料に目を通してもらうようにしている。対象となる利用者が入居するときは行政の担当者に相談し対応できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にも説明を行い不明な点がないか確認を取っている。契約及び解除をする際に利用者や家族に十分な説明を行って理解してもらえよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、要望を聞いたり利用者の状況を伝えるようにしている。「意見箱」の設置もしている。	利用者からの要望は、その都度日々のケアの中から把握しており、出かけた場所や食べたいものなどを聴き取るように努めている。家族等からの意見や要望は、面会時などに最近の情報等を伝えながら、和やかな雰囲気の中で聴き取るように努めている。「ずっと農家をしていたので、草取りなどできる範囲で外に行かせて欲しい。」などの要望があり、それらを運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見、提案等が出た場合はカンファレンスで話し合いを行っている。	管理者は月1回の職員会議や毎日の申し送り時に、職員から意見や要望を聞き取るほか、法人代表や管理者は気軽に話せる関係づくりに努めている。管理者は利用者の入浴時間を確保するための業務改善提案を受け、「トイレや洗濯室の清掃時間を夜勤帯に変更する」「支援が必要な利用者の入浴時間を変更する」などの対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務の届書（勤務変更、残業）の確認、提出をしている。向上心を持てるようユニットごとに目標を立て、それを実施できるように心掛けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での勉強会等を行っているが、外部研修は少なくなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の事業所との交流や地域包括支援センター主催で行われる研修にも参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の気持ちを共感、理解すること、要望、不安なことに対して安心してもらえるようにコミュニケーションを取ることで信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族と面談を行い、家族の思いや要望を聞きだし、対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族とよく話し合い他の介護保険サービス等の説明も行い、本人と家族が必要であるサービスを利用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事、職員と共に出来る事を意欲的に取り組めるよう支援し、共に過ごし支え合う関係を築けるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にし、連絡・報告を行い家族と協力し合えるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣で行きたいところがあるときは職員が付添い外出するようにしている。	職員はアセスメントや日々の関わりの中で、利用者の馴染みの人や場所などの把握に努めている。 家族等の協力のもと、馴染みの店での外食や美容院など、その人らしい生活が継続できる支援のほか、職員は知人等の訪問時にはお茶などを出して再訪問を促し、昔馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう利用者同士の相性なども把握して座席の配置も調整している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時及び終了後も家族からの相談等にも応じるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日常的なコミュニケーションから意向や希望を聞き、また職員からの情報を基に状態変化等を把握できるようにしている。	管理者や職員は、入居時のアセスメントから本人の望む暮らしを本人や家族等に聴き取り、本人の意向にそえるよう支援をしている。 前回の外部評価において「把握した思いの内容を職員に口頭で伝えているが記録に残すまでには至っていない」と記載されていたが、今回もまだ記録に残すまでには至っていない。	利用者一人ひとりの思いや意向を全職員で共有するため、把握した内容を記録に残すことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴、生活習慣などの聞き本人に合った生活環境、サービスを提供できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時の状態報告や利用者の毎日の状態を観察し記録に残して職員が利用者の現状を把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を取り入れて介護計画の作成をしている。状態変化に合わせて家族にも相談し介護計画の見直しを行っている。	月1回の職員会議時に利用者のモニタリングをするとともに、現状を踏まえた介護計画を6ヶ月に1回作成している。 把握した家族等の思いや意向は介護計画に記載されるほか、計画の根拠となる利用者の思いや意向は、利用者基本情報や利用者個人記録等に記載している。 利用者の状態に変化が生じた場合には、随時介護計画の見直しをして家族等に報告している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、ケアの経過をケース記録へ個別に記録している。情報を共有出来るよう申し送りノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームで出来ることについては個別の要望等にも対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などの参加や地域のボランティアにも支援してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけの医療機関の確認をして本人、家族の希望をできるだけ受け入れられるようにしている。	協力医療機関の訪問診療や訪問看護ステーションの健康管理を利用しているほか、必要に応じた診療科に受診ができるよう支援をしている。 かかりつけ医への受診は家族等が行っており、職員は家族等に日頃の様子を口答で伝え、医師に報告してもらうほか、家族等からは主治医の指示や薬の情報を確認して適切に医療の継続ができるよう支援をしている。 訪問看護ステーションの健康管理の記録がなく、現場の職員と連携するまでには至っていない。	訪問看護ステーションの看護師による健康管理の記録を全職員で共有し、小さな変化も見逃さずにより良いケアとなることを期待する。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関や訪問看護師に相談しながら利用者の健康管理を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族から入院中の状態を確認と、退院に向けての話し合いを行うようにしている。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方についての話し合い、事業所で出来ることの説明をしている。	事業所は看取りケアを積極的に実施する方針であり、入居時に重要事項説明書で家族等に説明し、書面で同意を得ている。 職員は看取りケアについての研修を実施するとともに、重度化した利用者に対しては、協力医療機関と連携を図りながら、適切な治療を受けられるよう支援をしている。 重度化しても協力医療機関に入院してしまうので、これまで看取りは行われていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応が迅速に行えるよう連絡網を作成している。	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署にも協力をお願いして避難訓練と消防訓練を行っている。	年2回夜間を含めた避難訓練を利用者とともに、実施している。 消防署との協力関係はできているが、地元の消防団との話し合いや地域住民の参加を積極的に検討している。 災害に備えて米や缶詰、懐中電灯、おむつ、毛布等を備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念の「人間の尊厳を守る」「プライバシーの尊厳のもと、利用者の自尊心を傷つけない対応を心掛けている。	排泄誘導時には、周囲に分からないよう小声で声かけをしたり、名前を呼ぶ時には「ちゃん」付けでは呼ばないなど、人格を尊重しプライドを傷つけない対応に努めている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかるロッカーに保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で希望や好みなどに耳を傾けるようにしている。入浴時や外出時なども自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事等、ある程度の日課は決まっているが利用者一人ひとりのペースに合わせた生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などはなるべく自分で選んでもらうようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳等は職員が行っている。	利用者は食事の準備や後片付けなど、できることは役割を持って取り組んでいる。 職員は食事介助の利用者が多いため、一緒に食事を摂ることをしなくなったが、それぞれの食卓に職員を配置し、利用者と和やかに会話を交わしながら声かけをしている。 職員は2ヶ月に一度誕生日や行事などに、利用者の好みに合わせた献立を立てるなど、食事が楽しみなものとなるように工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認を毎食行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛け、介助を行い口腔状態の把握に努めている。入歯の消毒も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のチェック表とケース記録を活用して排泄パターンを把握して、排泄の失敗を減らすよう努めている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりのタイミングを見計らいながらトイレ誘導をするとともに、失禁等の予防に努めている。 トイレには手摺を設置しており、介助が必要な状況でも排泄の自立に向けた支援が可能であるほか、夜間は居室内でポータブルトイレを使用することができるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	連携医療機関、訪問看護師に連絡・相談をして適切なしている。食事のバランスや体操など個々に応じた対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を作成し、それに基づいて入浴を行っているが、本人の希望や体調に合わせて調整をしている。	利用者の身体の状態に合わせて、個人浴槽と特殊浴槽を設置している。 週3回を目安に入浴支援をしているが、利用者が希望する時はできるだけ入浴ができるように対応している。 利用者が季節を感じられるよう5月には菖蒲湯、12月には柚子湯のほか、入浴剤などを利用して入浴が楽しみなものとなるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換、布団干しなど寝具を清潔に保ち、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認と服薬のチェックを行っている。副作用については連携医療機関に確認、相談をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの畑で野菜を栽培しており、実りの成長を外に出た時などに確認し、収穫の際には利用者と共にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、散歩など外出支援を行っている。家族との外出もいつでもできるようにしている。	天気の良い日には、日常的に散歩やコンビニエンスストアに買い物に出かけているほか、駐車場が広いので流しそうめんや花火大会、焼き芋を食べる会など、利用者が楽しみとなるような行事を企画している。 筑波山ドライブやお花見、つくばイオンなど、普段は行けないような場所に出かけるなど、外食や買い物、ドライブ等の外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭はホームで管理している。買い物などに出かけたときは自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も希望があれば使用してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝ホールとトイレの清掃を行い清潔で気持ち良く過ごせるようにしている。照明も調整し、居心地の良い空間作りをしている。	共用空間の居間には食卓のほか、テレビやソファを配置し、利用者が思い思いの場所で居心地よく寛ぐことができるよう工夫している。 利用者の書いた習字など、作品を壁にさりげなく飾っている。 吐き出し窓は外からは見えにくいガラスが入っており、部屋全体が明るく外を一望できて季節を感じることができ、居心地よく過ごせる空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにあるソファや外にあるベンチなど居心地の良い居場所の確保をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを持参してもらい、違和感なく自宅のように生活してもらえるようにしている。	居室はエアコンやベッド、カーテン、整理箆が備え付けられている。 管理者は利用者や家族等に、好みの布団や使い慣れた馴染みのテレビ、時計、箆筒、椅子、メガネ、家族の写真などを持ち込んでもらったりして、利用者が居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前や花のプレートを付け自分の居室が分りやすいようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム やまゆり

作成日 平成27年7月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者の思い、希望等を職員が聞き出しては記録に残すまでには至っていない	利用者の思いや希望を記録して共有できるように努める	ケース記録とは別に利用者の情報を書き込むノートを作成して記入する。カンファレンスの時に使用して職員が情報を共有できるようにする	2ヶ月
2	6	玄関の施錠についての話し合いや家族への説明の記録が書面で残されていない	玄関の施錠に対しての記録を残し、施錠しなくてもよくなるよう取組みをしていく	安全の為に施錠しているが、職員が気づかない時に利用者が外へ出てしまったなどの危険がある時は記録を残し検討して改善できるよう取り組んで聞く	6ヶ月
3	30	訪問看護師と職員との連携がうまくとれていない	訪問看護師と職員が連携を取れるようにする	お互いに伝えたいことを記入するノートのような物を用意して確認するようにすることで伝え忘れ等無いようにしていく	2ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。